

令和二年度 大阪国税局長賞

「税金と私の村」

天川村立天川小中学校 九年 喜良 はづき

夏休みに入る前、学校で税についての授業がありました。私はこの学習をするまで税についてあまり興味がなく、自分たち子供にはあまり関係の無いものであると思っていました。税について知っていたのは消費税と所得税ぐらいでその仕組みなどもよく知らなかったし、税金が何に使われているのかもよく分かっていませんでした。しかし、授業で先生の話聞き、税についていろいろなことを学んで、税の仕組みや役割についても知ることが出来ました。その学習の中で私がとても驚いた話がありました。

9年前、私の住んでいる村は川の氾濫によって水害にみまわれました。その水害での被害は、その時使われていた中学校の校舎が浸水したり、学校の教職員が使う住宅が流されてしまったり、村の人の家が沈んでしまったりなどとても大きな被害だったと聞きました。その時私は6歳くらいだったので当時のことはあまり覚えていませんでした。しかしそれから半年ほどして私が小学校に入学した時、校舎を使えなくなってしまった中学生たちが校舎が復旧するまでの間、小学校の校舎で勉強していたことは当時小さかった私の記憶にも残っています。それから復興が進み、一年ほどして中学生たちは元の校舎に戻ることが出来ました。この時、中学校の校舎の復旧などに使われたのが税金だったそうです。そのおかげで中学校の備品は水害前と全く同じものを買そろえてもらうことが出来たと聞きました。私はこの事を税について学習した時に先生に聞いて初めて知りました。その事を聞いて、もしその時税金が使われていなければ中学校が復旧するにはもっと時間がかかっていたと思うし、中学生たちが元の生活に戻るのにはもっと後だったのかなと思いました。私が今通っている学校は、小学校と中学校が統合した学校なので、私はその中学校に通ったことはありません。しかし今自分が使っている学校の備品はその時税金で買ったものが今の学校に持ってこられたものかもしれないと思い、一気に税金が身近なものに感じました。

今回、税について学んで税金にはいざという時にたくさんの人を助ける役割があることが分かりました。それだけでなく、私たちがこうして学校で勉強ができているのも教育費に税金が使われているからであるし、それ以外にもいろんな所で税金が使われているのだと知ることが出来ました。税金は私たちの身の周りのいろいろな所で使われていることが分かり、税金は私が思っていたよりももっと身近なものだったんだなと感じました。